



MEP Newsletter

ミャンマー国マラリア排除
モデル構築プロジェクト

2016/11/1

JCC で今後の活動にむけた議論が展開される

主なプロジェクト活動を紹介

第 1 回合同調整委員会を実施

プロジェクトが開始され 5 カ月目の 2016 年 7 月 14 日にネピドにて第 1 回合同調整委員会 (JCC) が開催されました。カウンターパートである公衆衛生局から副局長の Dr. Than Win, 疾病対策課長 Dr. Than Dar Lwin, 国家マラリア対策プログラムマネージャーの Dr. Aung Thi, 対象地域の保健局長、VBDC スタッフが参加。日本側は JICA 所長、JICA 本部担当者との出席もあり、30 人以上の関係者が集い、今後の活動について活発に協議が繰り広げられました。

プログラムマネージャーである Dr. Aung Thi はミャンマーにおけるマラリアの状況、中村専門家はマラリア排除に向けた活動計画を説明しました。副局長である Dr. Than Win は元マラリアプログラムマネージャーであったため、ディスカッション内容は深く、Dr. Thandar Lwin や各州保健局長からも活動への示唆や助言を受けることができました。

ミャンマーを取り巻く地理的かつ社会的な問題等から、ミャンマーにおける健康問題は複雑であり、マラリア活動も一筋縄ではいきません。国家マラリアプログラムのパラダイムを“対

策”から“排除”にシフトしていく難題を担うプロジェクトであるものの、第 1 回 JCC は活発な議論がもたれ、また時折笑いもある明るい雰囲気の中で幕を下ろしました。

本プロジェクトは技術協力と無償資金協力の積極連携で計画されており、JCC 前日にはマラリア無償資金協力の機材配布やソフトコンポーネントによる研修について関係者と協議、その後、プロジェクト対象州地域のマラリア対策担当者によるマラリア流行状況についてプレゼンテーションがもたれました。JCC では各活動地域における発表に十分な時間を配分できないため、前日のこの発表は、状況を理解し、また今後の活動の方向性を見出すうえで非常に有意義なものになりました。



JCC の様子



マラリア調査実施 (Oak Twin)

マラリア流行度を確認するため 3 手法を用いた調査が実施され、350 名におよぶデータを入手 (2 ページ)



マラリア無償資金協力開始

マラリア検査室やデータ管理室整備に向け、JICA 導入。顕微鏡検査や情報マネジメント研修を実施 (2 ページ)

マラリア流行度調査実施 (Oak Twin)

マラリア排除に向け、現下の流行状況を確認し、評価のためのベースラインとするため、前主要感染症対策プロジェクト時代にはマラリア高度流行地域であった Oak Twin の 4 村で調査を実施しました。(2016 年 10 月 3 日から 3 日間)。調査には、①現在の感染状況を確認する迅速診断テスト (RDT)、②過去のマラリア感染が確認できる抗体検出検査、③顕微鏡検査による原虫の検出、といった 3 手法が用いられました。CP、現地ボランティア、プロジェクト職員の手際よい調査に



写真 (上) : 住民の協力を得て、採血実施

写真 (中央) : 採血を待つ子ども達

より、350 名に及ぶ検体を入手することができました。

今回の調査では、RDT によるマラリア陽性者は検出されず、通常の疫学指標においてはマラリア流行が激減していることを再確認することができました。さらに、抗体検出で

は、若年層の抗体陽性はほとんど検出されず、マラリア伝播が極めて少なくなっていることが確認されました。しかし抗体陽性率は、加齢に従って上昇していました。これは、IgG 抗体が頻回のマラリア感染暴露によって抗体価が上昇し、消失に時間を要していることが分かります。成人と比して移動が少ない低年齢層群の結果は、居住地のマラリア流行状況をよく反映するのに反し、移動することの多い労働年齢群では居住地の流行状況を反映し



ないため、流行状況の把握をするには適さないと言えます。この地域では、依然として媒介蚊の生息は確認され、また竹林伐採やエレファント・キャンプなど山地内への無免疫集団の流入は継続しています。よって、マラリア Elimination に向けた適正な調査手法の確立が急務であることを痛感しました。

また、2009 年に同一方法で同一地点での調査が主要感染症対策プロジェクトで行われており、7 年間での状況変化について分析することができました。

本調査には、JICA 本部から松野所員が同行。地域住民と積極的にコミュニケーションを図り、マラリア調査でも積極的に参加していました。



写真 (上) : 地域子ども達と松野所員

マラリア無償資金協力が開始される

平成 26 年 E/N 署名されたマラリア無償資金協力による資機材の搬入とその機材を用いたソフトコンポーネント研修 (顕微鏡検査、情報マネジメント) が開始されました。10 月は 2014 年に主要感染症対策プロジェクトの協力で改築された検査室内を整備し JICA によって改修された研修室で、4 週間にわたる顕微鏡研修が実施され、25 名の PHS2 (Public Health Supervisor 2) やマラリアスタッフが参加されました。同時にマラリア排除において重要な役割を持つ対象タウンシップのマラリアスタッフに対し、疫学情報・GIS・GPS の取扱に関して一週間の研修を 25 名ずつ 2 班に分けて行いました。この研修は、これまで州地域で行われていた活動の意思決定をタウンシップへ移行させるために行われ、マラリア排除モデルの中核をなすものです。

研修には本部新卒の松野所員も加わり、短期間で習得した GIS の使用方法を研修生へ説明しました (写真 1 ページ右下参照) 今後、プロジェクトでは継続してフォローを行い、モデル構築を行っていく予定です。



【表紙説明】

熱帯熱・三日熱マラリア混合感染患者の血液像 (上)

9 月カレン州出張時にマラリアのデータを確認し協議する中村専門家と CP (左下)

マラリア検査の検体 (左: 抗原・抗体検出迅速診断テスト、右: 顕微鏡診断用の血液薄層、厚層塗抹スライド)

おまけ

調査中、象にも会えました



文責: 川井

国際会議出席

- The 8th Meeting of the RAI Regional Steering Committee、世界基金 (GF) の運営委員会にオブザーバーとして参加 (中村専門家) (2016 年 10 月 11 日、カンボジア)
- WHO メコン地域移動人口への効果的介入会議出席 (中村専門家) (2016 年 10 月 27-28 日、タイ)

さらに詳しくは

Office:
Malaria Control Office Compound,
Corner of Bayint Naung St, & BPI St,
West Gyogone, Insein Township,
Yangon, Myanmar
E-mail: min.rieko@gmail.com
(担当: 川井)